



第124号  
特定非営利活動法人  
環境パートナーシップちば

TEL : 090-8116-4633  
E-mail : info@kanpachiba.com  
http://kanpachiba.com/

## 第23回「エコメッセ2018 in ちば」開催報告 ～ちばから発信、SDGs～

エコメッセちば実行委員長 桑波田 和子

平成30年10月8日(月・祝)第23回「エコメッセ2018 in ちば」を開催しました。

ご来場、ご出展、ご協力、ご協賛の皆さまに感謝申し上げます。

今年の台風は、関東地方などへの影響も多く、エコメッセ開催前も台風の進路に悩まされ心配しましたが、無事開催でき感謝でした。

エコメッセのテーマは「ちばから発信、SDGs」でした。SDGsとは「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」の略称で、2015年9月の国連サミットで採択されました。国連加盟193か国が2016年～2030年の15年間で達成するために掲げた目標です。17の目標を達成する具体的な169のターゲットで構成されています。

エコメッセでは、まずSDGsを知っていただく、出展団体の主な活動を17の目標から1つ選んでもらい、それぞれのブースに掲載しました。SDGs理解促進セミナーや、SDGs吹奏楽団による「音楽から世界を知る」、地球広場など、JICAの協力をいただき、日本から世界を知ることができました。また、木更津市消費生活センターのSDGsの取り組みも紹介していただきました。さらに、自然エネルギー100%で大学のエネルギーを賄う千葉商科大学など先進的な取り組みや、こども環境教室、食エコレシピ、フードドライブ、COOL CHOICEなど、さまざまな環境への取り組みを知る場がありました。各ブース内では、来場者の方々と担当者とのやり取りなどが見られました。これらを通して、エコメッセちばが主軸とする環境の視点から、SDGsを知っていただけたと期待しております。

環境パートナーシップちばでは、フロン助成金をいただき、201室でSDGs・気候変動シンポジ

ウムを開催し、多くの方が参加されました。今後、市民団体・企業・行政パートナーシップによるSDGsの取り組みが必要と実感しました。ブースでは、マイクロプラスチックについて、砂の中から探す体験などを通して、生態系への影響など知り、プラスチックについて考える場を提供しました。親子連れの参加など、興味を持っていただけたようです。

エコメッセは、市民団体・学校・企業・行政が実行委員会を組織し、皆さまからの出展料・協賛金、ちば環境再生基金の補助金をもとに、企画・運営しています。当日は、実行委員はもとより、高校生・大学生・企業・一般の方約80人にボランティアとしてお手伝いいただきました。

今後も、持続可能な社会の実現に向け、皆さまと一緒に歩んでいきたいと思っておりますので、ご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。来年のエコメッセ2019 in ちばは、平成31年10月20日(日)幕張メッセで開催の予定です。みなさまのご予定に入れていただければ幸いです。



## 「SDGs 理解促進セミナー」報告

(特非) 環境パートナーシップちば理事 重 政子

日時：10月8日(月祝) 10時30分～12時  
場所：幕張メッセ国際会議場201室

「環境パートナーシップちば」では、“エコメッセ2018 in ちば”の実行委員会企画のSDGs理解促進セミナー(セブン・イレブン記念財団の助成を受けて実施)の進行を担当しました。

今回のエコメッセの全体テーマ「ちばから発信SDGs」の一環として開催された“SDGs理解促進セミナー”は3人の講師を迎え30分ずつの講演形式で行いました。

レクチャーを通して、SDGsがわたしたちの暮らしとどのように結びついているかを、一般的にはまだ、あまりなじみのない方々にも理解していただくことを目的としましたので、当初は会場への集客を懸念しましたが、担当者の危惧をよそに満席となり、皆さま熱心に聴講していただくことができました。

講師のトップバッター、星野智子氏(一社)環境パートナーシップ会議副代表理事／(一社)SDG市民社会ネットワーク理事「市民から見たS

DGs～SDGs時代に求められるパートナーシップ～」としてSDGsの歴史的背景・全体概要とパートナーに関する事例紹介。

2番目は、山田 優氏 青年海外協力隊 派遣国ドミニカ共和国「Dive into the Dominican～SDGsメガネで何が見える?～」派遣国職種、環境教育の試行錯誤の体験から、SDGsは日常生活を通じた活動にこそ意義があることを美しい映像を通して訴えた。

最後は笹谷秀光氏 株式会社伊藤園 顧問/千葉商科大学経済研究所一般客員研究員「企業によるSDGs活用関係者との連携」として環境・社会・統治の関係の確認と持続可能性に関連する用語の捉え直しを通して企業人としてSDGsを活用することの重要性を訴えた。

限られた時間内で、SDGsへの理解促進について3人が、それぞれ異なる立場から講演していただけたことは、大いに意義があったと企画者のねらいに感謝いたします。

## 第23回「エコメッセ SDGs・気候変動シンポジウム」報告

2018年10月8日(月・祝)に開催されたエコメッセ2018 in ちばの連携企画として同日、幕張メッセ国際会議場201会議室でSDGs・気候変動シンポジウム第二部基調講演・パネルディスカッションを行った。本シンポジウムはSDGs実現のために行動を起こしている多様なステークホルダーによる情報交換会と位置づけ、環境パートナーシップちばとして、「公益信託地球環境保全フロン対策基金」を受託して実施した。

まず千葉商科大学学長・原科 幸彦氏から持続可能なエネルギー社会へ～挑戦 自然エネルギー100%大学～と題する基調講演をしていただき、その後ファシリテーターとして神田外語大学言語メディア教育研究センター長・石井 雅章先生にもご参加いただき、原科先生を含む5人のパネリストに参加していただいたパネルディスカッションを行った。

企業からはイオン株式会社グループ環境・社会貢献部長・金丸 治子氏、行政からは千葉県環境生活部次長・生駒 昌弘氏、大学からは千葉商科大学学長・原科 幸彦氏、市民団体からは「未来バンク事業組合」「天然住宅バンク」理事長・田中 優氏、

国際的な活動を行っている団体から JICA 青年海外協力隊・中本 岩郎氏(派遣国: エクアドル共和国、職種: 環境教育)に、それぞれの立場におけるSDGs実現に向けた取り組みの進捗状況を報告していただいた。

社会のさまざまな場でSDGs実現に向けた活動が実践されていることが紹介され、参加した方々がそれぞれの状況下でできる行動のヒントをもらえるシンポジウムになった。また、個々の所属の中で発生している問題の解決には異なる属性の個人・団体との交流や意見交換が不可欠であることが明確になり、“パートナーシップ”が今後の活動では大変重要であることが実感できるシンポジウムであった。(文責: 谷合 哲行)





## 第23回エコメッセ2018inちばに出展

標記の催事が平成30年10月8日(月・祝)幕張メッセで開催され、砂浜のマイクロプラスチックを入り口に、環境に排出されてしまったプラスチックごみをテーマに出展をしました。

資料教材一式は、日本水環境学会からお借りしました。まず、ビニールプールに入れた東京湾の砂浜の砂(本物)から、マイクロプラスチック(5mm以下のものを言う)を探してもらいます。5mmメッシュのシートを入れたシャーレにピンセットでつまみいれるのですが、砂には赤や青や、カラフルなプラスチックの大小の破片がたくさん散らばっているの、小さな子供でもあつという間です。

子供向けの紙芝居もあります。海中のプラスチックごみを餌と間違えて食べてしまった亀や魚などが苦しんでいるという内容です。

次に顕微鏡による観察です。プラスチックの表面が風化してボロボロになっていることがわかります。また洗顔料などに入っているマイクロビーズも見てもらいます。その害とは裏腹にきれいな球体です。

パネルでは、海鳥のお腹から出てきたプラステ

ックの写真からの体重比で、この数倍もの量のプラスチックが私たちのお腹に入っていたらどんなに苦しいだろうか、と想像してもらいます。プラスチックの表面に有害な化学物質も付着し生物濃縮をすることも伝えます。

家の中は雑貨も家具もプラスチックだらけです。安価、自由な成形、カラフル、軽量と、なんとも便利な素材でどっぷりその恩恵に浴しているものの、後始末には無頓着。ここまで放置した大人の不始末を子どもたちの世代に手渡す心苦しさを大人はもっと反省すべき、と思いましたが、若い人、特に母親ほど関心をもってくださった感じがしました。(文責 中村 明子)



### 平成30年度千葉県環境講座報告

## 風力発電とソーラーシェアリング

開催日：9月26日(水) 9:00~17:00

場 所：銚子市・匝瑳市

参加者：35名 県：1名 スタッフ：4名

講 師：・宮下 朝光氏 特例認定 NPO 法人太陽光発電所ネットワーク千葉

・市民エネルギーちば合同会社

・イオンモール(株)会社イオンモール銚子

再生可能エネルギーに取り組む施設見学の講座の行先は、沖合風力発電が見えるイオンモール銚子店の屋上と匝瑳メガソーラーシェアリングの施設です。参加者の、ソーラーシェアリングを実施するための仕組み作りを学び、地域で活用したいなど、熱い思いなどを乗せて現地へ向かいました。

車中では、講師の宮下氏が再生可能エネルギーについて、クイズや豆知識など分かりやすく解説され、現地に着くまでに事前勉強もできました。

イオンモール銚子店渡辺氏から、「銚子に住んでみると、年中海からの風が強く、風力発電設置には適していると実感した」「風やガスのせいで、洋上風力発電の施設を見れない日が多い」など、銚子の様子を知ることもできました。風車と観測タワーは銚子市内から南沖合3.1kmに設置され、実証実験されていますが、当日は良く見ることが

できました。

匝瑳メガソーラーシェアリングでは、代表の樫氏より、「丘陵地帯の場所は、40年前山を削って畑にしたが、水はけが悪く畑に適せず、耕作放棄地になっていた場所に、施設を設置し、農地として再生することに成功した日本随一の事例」と話されました。農地を守りながら発電する従来型ソーラーシェアリングをさらに一歩進めて、ソーラーシェアリングによって農業を復活させようという取り組みについて、参加者の賛同や、質問など熱心な姿が印象的でした。

(文責：講座事務局 桑波田 和子)



## 平成30年度千葉県環境講座報告

## 生物多様性異変 なぜ外来生物は増え続けるのか

国立環境研究所生物・生態系研究センター室長（保全生態学者、ダニ学者）五箇 公一氏による講演会が、10月20日（土）船橋市中央公民館で開催され、50人以上に聴講いただきました。冒頭にこれから250枚のスライドで説明しますという宣言の後、一気に以下のお話をいただきました。

生物多様性(Biodiversity)とは、さまざまな種・遺伝子の生物が、さまざまな環境変化（生態系・社会・文化）に対応し、生き残った結果をいう。かつて日本の生物多様性を支えた里山は、自然の流れに逆らうことなく「共進」して循環型社会を形づくっていたが、生物の食物連鎖のピラミッドの外にいる高次消費者である人間が大量消費社会への過程で里山を放置したことで循環型社会が崩れていき生物多様性が変化した。かつてウシガエルは食用として、アメリカザリガニはウシガエルの餌として、ブラックバスはスポーツフィッシングを目的として人間が日本に持ち込んだが、時間経過のうちにその本来目的が忘れられどんどん増殖していった結果、生態系や人間に害を及ぼす侵略的外来生物となったという例がある。

最近話題のヒアリも、グローバル化により外からさまざまな物を持ち込むコンテナの中にまぎ

れて日本に入ってきている。今後、中国の一路政策等により、細菌を含めた外来種が入ってくる可能性も考えられる。これに対する適切な防除方法には①捕獲：物理的防除、②天敵導入：生物的防除の他、現時点での確実な対策として③薬剤による防除方法が、巣作りや食生特性を把握したうえで行ったアルゼンチンアリの防除経過を例に紹介された。

受講者からは、とても分かりやすく、話題が多く時間があっという間に過ぎましたという感想をいただき講演を終了しました。（文責：川島 謙治）



## 平成30年度千葉県環境講座

## 講演会「本当にすごい東京湾」

11月18日（日）に千葉市生涯学習センター小ホールにて標記講演会が開催されました。講師は海洋環境専門家・NPO法人海辺づくり研究会理事の木村尚（たかし）さんです。多分、そのような肩書よりも、「ダッシュ海岸の木村さん」のお話を聞きに来てくださった方が多かったと思いますが、72名のご参加をいただき、大変盛況な講演会となりました。

木村さんのお話は、多分、お人柄が出ているのだと思いますが、講演というよりもむしろトークショーという感じで、たくさんスライドを映しながらソフトな語り口で次から次に話題が展開し、約1時間半があっという間に終わりました。

講演の後の質疑のコーナーもきちんと時間を確保してくださり、参加者からの質問・意見に丁寧に答えてくださいました。質問者も多く、講座終了後にもたくさんの方が残って、木村さんと直接の意見交換をさせていただきました。

参加者のアンケートでは「大変よかった」という評価が圧倒的に多かったです。参加申し込みの時点では「何が『本当にすごい』のか？」との質問もありましたが、実際に木村さんの話を聞いて、

みなさんが「東京湾は本当にすごい」ことを実感されたと思います。質疑の中で、「本当にすごい東京湾！」はよく分かったが、『本当にすごい木村さん！』だ、という感想も飛び出しました。

ちなみに木村さんは、日本の人口の4分の1の汚れが入って来て、東京という大都会にこれだけ近いのに、魚だけでも730種以上生息しているこの豊かな東京湾を、世界遺産にしたい！というのがユメだそうです。

豊かな東京湾と、それをもっと良くするために活動していらっしゃる木村さんたちのご努力を再認識した講演会でした。（文責：小倉 久子）





## 平成30年度千葉県環境講座報告

## 「リーダー養成講座～はじめの一步 この指とまれ～」

9月30日(日)、神田外語大学のKUIS8(8号館)にて「リーダー養成講座～はじめの一步 この指とまれ～(初心者向け)」が開催されました。

当日は、非常に強い勢力を保つ台風24号の接近により夕方以降の交通機関の乱れが予想されたため、本来は10時～16時に行うプログラムでしたが、午前中で終わらせることになりました。

そのような状況のなか、まずは(一社)森のようちえんはっぴー代表の沼倉幸子氏に、「森のようちえん」の活動紹介、はっぴー開園に至る経緯や思い、日常の子どもたちの様子などを話していただきました。「森のようちえん」には「幼稚園」「自主保育」などいろいろな形態があることや、場所も森だけでなく、自然体験をするフィールドすべてが対象であることを知りました。また、はたけの文化やうみ遊びの文化などがあり、子どもたちはいつの間にかいろいろなことができるようになっていくという話や、保護者にも変化があり、子どもたちとの関係も変わっていくという話も印象に残りました。

その後、神田外語大学 言語メディア教育研究センター長 准教授の石井雅章氏による、10分間の超短時間ワークショップを行いました。「〇〇の

場を作りたい」「そのために用意できるもの」「あればいいと思うもの」をグループ内で各自発表した後、「それらを基に“はじめの一步”につなげることができる」と、講座をまとめていただきました。

終了後、学生食堂「食神」で昼食を食べながら参加者同士、短いながらも有意義な時間を過ごすことができました。この時間が「はじめの一步」につながることを願っています。(文責:荒川 薫)



## 平成30年度千葉県環境講座報告

## 「リーダー養成講座「環境学習スキルアップ」

11月11日(日) 標題の講座を、千葉市の神田外語大学 KUIS8(8号館)で10時～16時に開催しました。参加者は「SDGsをテーマとした環境学習のデザイン手法・進行プロセスを学ぶこと」を目標に集まった中・上級者17名、講師は環境社会学が専門の神田外語大学言語メディア教育研究センター長准教授 石井雅章氏でした。

はじめに写真のような「モノクロアイコンから2030年に向けて目指すべき状態を想像する」というワークで「ビジョンを自分たちなりに考える」「与えられたもの」から「自分ごと化」する学びを体験しました。

次に「そもそもSDGsとは」の説明の後、自分が貢献できそうなものを探す(単なるマッチング)ではもったいないので、ここからの脱却をめざすワークでした。SDGsの具体的な169の目標を元に「過去・現在・未来の達成度」を想像したカードを模造紙で貼って可視化する、共有することから2030年目標(Goals)を達成できるだろうか?と問いを考えました。どういう条件ならば可能?不可能なのは何が原因?など考え、更に2030年に向けてやるべきことは、いままでの「や

り方/見方/あり方」で良いのか、新しい「やり方/見方/あり方」が必要なのかを考えるワークによる講座でした。最後のワークは、各人の環境活動をベースにした模擬ワークを企画した発表でした。

講座の終わりに、WSづくりのポイントとして目的を明確に・増やさない、ターゲットを意識、アイスブレイクとの連動、プロの力を借りる、対応は柔軟に、でも時間は守るという一日のワークからの学びとしてまとめていただきました。

(文責:横山 清美)



## 秋休み公民館講座『ダンボール工作』

4日間の千葉市小学校の秋休み初日の10月5日(金)、千葉市緑が丘公民館で標題の環境講座を行いました。前日に前期の通信簿をもらった小学生6人とお母さん3人が参加してくださいました。NPO環パちばからは3名が担当しました。

工作はあらかじめ切り取り線を記したダンボールをハサミで切ってから、木工用ボンドで貼り合わせて完成します。恐竜のティラノザウルス、トリケラトプス、ソウさんの中から好きなものを選んで作ってもらいました。まず、大まかにパーツを切り、そのあと細かく切るとやりやすいことや、線のぎりぎりに切るより、少し余裕をもって切ることがポイントです。今回は低学年の付き添いのお母さんの機転で、切れ端のダンボールを使った樹木や草原が現れ、子供たちは大喜びでした。また、おまけとしてペットボトル(炭酸用)と風船を使って作った『空気砲』でマットを倒すことで、空気にも重さがあることに気づいてもらいました。

工作によって出てきたダンボールの切りくずの山やペットボトルなども同じものを集めることを通じて、資源としてリサイクルできることを学んでもらいました。

何も考えず可燃ごみとしてクリーンセンターに持ち込むのではなく、きちんと分別してまとめて出すと処理がしやすく、リサイクル(再生)やリユース(再使用)することができます。千葉市ではごみの捨て方のルールとして、①各地域で決められたごみステーションに出す。②収集日の早朝から朝8時までに出す。③決められた容器・方法で出す。があることを確認して講座を終了しました。

事前打ち合わせや準備、当日の心のこもった対応をしてくださった公民館職員の方にお礼を申し上げます。(文責:川島 謙治)



## 印旛沼流域環境・体験フェア出展

平成30年10月28日(日)佐倉ふるさと広場向かいの会場で開催された印旛沼流域環境・体験フェア(まるごといんばぬま)に環境パートナーシップちばが出展参加しました。

秋空の下絶好のイベント日和のなか、私たちのブースはナガエツルノゲイトウ関連写真展示と子供向け魚釣りゲームをセットしてオープンです。特定外来種のナガエツルノゲイトウ写真展示で来場者にアピール、また、すぐ隣のブースでは、ナガエツルノゲイトウを材料にした草木染め体験で、双方並んだブース同士の相乗効果が表れました。

一方、魚釣りの方は、スタッフの休憩時間が取れないくらいの対応多忙でした。布で作った魚といえども、姿サイズは本物そっくりです、孫を連れてきたご婦人はこれをまじまじと眺め「どなたがお作りなされたのですか?」。子どもたちは、餌代わりに小さな磁石が付いた釣り糸の先端を魚の口元へ合わせるのに気持ちを集中しています。釣りあげた瞬間が楽しそうで、「ヤッター!」の掛け声はスタッフも引き込まれました。

釣りあげた大きなコイを胸に抱えて、展示してある同じサイズの魚拓図に重ね合わせ。獲物の確

認をしてガッツポーズ。スタッフはすかさず寄り添いながら分かりやすい言葉で魚の説明です。在来種なのか外来種なのか、生態系のお話を織り交ぜた話について、子供たちも釣りの成果に加え、外来種の魚を覚え満足気でした。

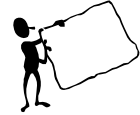
今回のブース来場者はファミリーが多く、なかでも3世代家族や外国人の家族姿も散見され、国際色な一面もうかがえました。これから先、オランダ風車の麓でもっとワールドなイベントに発展して、輝く印旛沼にしたいな〜とふりかえりました。(文責:萩原 耕作)





## 県内の環境保全活動人（団体）紹介 — 47 —

おききました！ この人・この団体

千葉県冒険あそび場ネットワーク  
～子ども時代を自然の中で～

千葉県冒険遊び場ネットワーク 古川 美之

皆さんも小さい頃は泥んこになって遊び、暗くなるまで野山を駆け回り、危ないこともたくさんして育てられたのではないのでしょうか？

その中で、自然の恵みも怖さも知り、友達と地域の大人の温かさを感じ、その景色は心の原風景となつて、大人になつても心の支えとなつていることと思います。

冒険遊び場プレーパークとは、デンマークが発祥の子どもの遊び場です。日本では世田谷区羽根木から始まり、現在では400カ所以上の遊び場があり、千葉県では平成17年には3カ所だった遊び場が現在では38カ所に、千葉市各区、柏、市川、八千代、南房総、四街道、成田、そして今年には船橋にもプレーパークが誕生しました。

「プレーパークとは子どもたちが自発的に遊ぶ「子どもの遊び場」です。いつでも、だれでも遊びに来ることができます。（もちろん保護者も地域の方も！）子どもたちが自分のペースで挑戦しながら過ごせることを大切にしています。プレーワーカーは遊び場で過ごす子どもたちを支えます。」（千葉県冒険遊び場ネットワーク）

千葉県内のプレーパークは公園の一角を借りて開催している場から、里山の民有地で里山協定を結んで開催している場とさまざまですが、共通しているのは「暮らしの近くの自然の中で」、「地域住民が運営」そして「手作り」であることです。

大事にしているのは「子どもたちが作る場である」と「自分の責任で自由に遊ぶ」こと。そこには子どもたちの自発的な遊びを支えるプレーワーカーやスタッフが常駐しています。子どもたちは誰でも無料で参加できることが多く、市の事業委託や補助金、賛助会費や寄付で運営費を賄っています。

木登り、穴掘り、ロープを使った遊び、端材での木工、そして焚き火。

大人の決めたプログラムはなく、子どもたちの自由な発想で遊びが始まります。例えば焚き火。子どもたちが自分で考えるのでうまく行かない方が多いですが、大人は先回りせずに子どもの様子を見守ります。火がつかなかったら燃えやすいものを探す、枝の組み方を変えてみるなど工夫します。それでもうまくいかないときは、友達や場にいる大人に聞くかもしれません。そしてまた挑戦してみる。その中で、自分の得意なことや苦手なこと、人の力を借りること知っていきます。できたときの満足感、何より自分で考え行動したことが自信につながります。

うまくいってもいなくても、形になつてもならなくても、自分で決めたことはその結果も引き受けられる。そしてまたチャレンジできる。その繰り返し子どもが心と知恵を育て、それこそが「生きる力」となります。

たかが遊びされど遊び、人生の中で無心に遊べるのは1～9歳くらいのわずか8年。子ども時代はあっという間に過ぎていきます。だからこそ、今を生きるすべての子が、安心して過ごせる時間や空間、仲間、そしてスキマを保障することが大人の役割です。その8年の間に、子どもたちは実体験として自然の豊かさや自然との共生を感じ、相手を思いやる心や将来の環境保全や持続可能な社会づくりへの意識を育てることでしょう。

食べ物は体の栄養、遊びは心の栄養。

人権や平和平等など自然保護だけにとどまらないSDGs達成のためには、子ども時代を自然の中で存分に過ごすのが欠かせません。千葉県冒険遊び場ネットワークは県内プレーパーク団体で構成さ

れています。定期的に合同研修や情報交換を行い、子どもたちが自然の中で遊んで育つことを支えています。



## 運営委員会報告

### 10月運営委員会

日時 10月11日(木) 17:30~20:20

場所 船橋市民活動センター

#### 【報告】

- ・地球環境基金助成金事業 9/18
- ・エコメッセちば出展 10/8
- ・千葉県環境講座 9/26 9/30
- ・だより123号発送 ・リーフレット印刷
- ・理事会 9/29 ・千葉市公民館講座
- ・印旛沼流域環境・体験フェア説明会 9/28
- ・その他

#### 【協議】

- ・県環境講座 10/20 11/11・18 12/2・19
- ・印旛沼流域環境・体験フェア 10/27・28
- ・地球環境基金助成金事業 11/26
- ・千葉市公民館講座 ・だより124号
- ・31年度事業について ・その他

### 11月運営委員会

日時 11月9日(金) 13:00~16:00

場所 コミュニティサロン(幕張おやかカフェ)

#### 【報告】

- ・県環境講座 10/20
- ・印旛沼環境体験フェア 10/27・28
- ・再生基金助成金事業
- ・地域ESD活動推進拠点(地域ESD拠点)に登録
- ・ちば環境再生基金説明会及び報告会 10/30
- ・地球環境基金助成金説明会 11/1
- ・水環境研究所公開シンポジウム 12/1
- ・いちほら市民大学 11/13・27 12/11

#### 【協議】

- ・県環境講座 11/11・18 12/2・19
- ・30年度事業中間ふりかえり
- ・31年度事業について
- ・理事会 11/17 ・その他

## お知らせ

関東ESD推進ネットワーク  
第2回地域フォーラム 地域でSDGs!  
~地域のSDGs実践者と考える、  
sに貢献する取り組み~

#### 【開催概要】

- ・日時：平成30年12月22日(土)  
13:30~17:30
- ・場所：東京ウイメンズプラザ ホール・視聴覚室  
(東京都渋谷区神宮前5丁目53-67)
- ・対象：SDGs、ESDにご関心のある教育、  
NPO、行政、企業、学生の方など
- ・定員：100名(無料・要申込、  
懇親会参加費：1,000円)
- ・詳細・申込み：[https://kanto.esdcenter.jp/kanto-esd\\_rf2018](https://kanto.esdcenter.jp/kanto-esd_rf2018)

自然エネルギーを広めるネットワークちば  
(リネットちば)主催 新春スペシャル上映会  
~アカデミー賞受賞俳優と考える気候変動~  
「地球が壊れる前に」

#### 【開催概要】

- ・日時：平成31年1月5日(土)  
開場 13:00 開演 13:30~16:00
- ・場所：幕張国際研修センター 2F 渚の間  
(千葉市美浜区ひび野1-1)
- ・イベント概要はこちらから：  
<https://www.renet-chiba.net/>
- ・定員：200名(無料・要申込：  
<http://urx.blue/MfRb>)
- ・お問い合わせ：renetchiba@gmail.com
- ・TEL：080-3077-4200  
(事務局：NPO支援センターちば)

### 「特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば」

環境活動の推進と充実を図るため、市民・団体・企業・行政・学校とのパートナーシップのもと、「持続可能な開発に向けた目標(SDGs)」や「持続可能な開発のための教育(ESD)」の視点を意識して、さらなる持続可能な社会の実現をめざすことを目的とする。

### お問い合わせ

事務局：〒262-0006 千葉市花見川区横戸台21-13 特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば  
Tel：090-8116-4633  
E-mail：[info@kanpachiba.com](mailto:info@kanpachiba.com)  
<http://kanpachiba.com/>  
※会費や会員申し込みなどの情報は上記HPでご確認ください。